

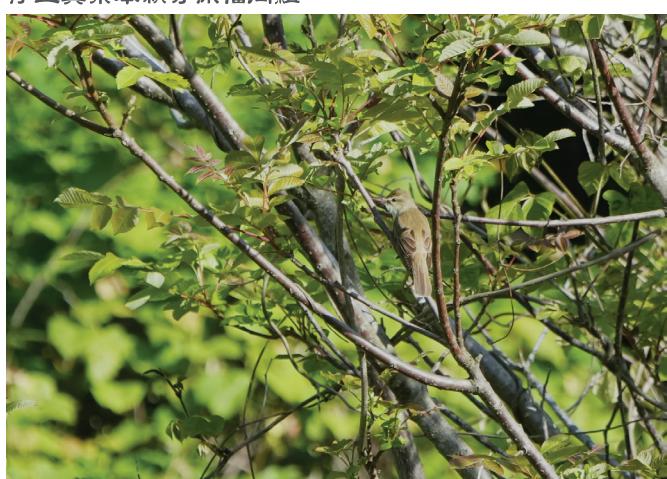
仏様のおはなし新シリーズ第136集「読むことはお聴聞?」

『「仏法は聴聞に極まる」と言われるけど、耳の聞こえない人はどうするのだろう?』

10年ほど前にお寺とご縁があり、僧侶となるべく通った京都の中央仏教学院で真っ先に起こうた疑問でした。それは、どの先生も「浄土真宗はみ教えを聞くこと、すなわちお聴聞が一番大切なのだよ」とご教示くださる中での私の素朴な問い合わせでした。先生方や先輩、同級生に尋ねても、その答えは実に様々で、中でも一番多かったのは「読むことも聴聞だ」という答えでした。私も『たしかに。お聖教や仏教書を読む中で、南無阿弥陀仏の呼び声を聞かせていただけばいいのだ。それなら耳の聞こえない人もできるはずだ。』と自分を納得させてきました。

しかしその後、縁あって手話の世界に出会い、現在、市の通訳者として活動する中で、「決してそうとは言えない」という事実に気づかせていただきました。聴覚に障がいをお持ちの方の背景は多種多様です。生まれつき耳の聞こえない人。幼いときの病気が原因で聞こえなくなった人。青年、大人で日本語を習得した後に聽力を失つた中途失聴者。そして難聴者の存在。その中でも、日本手話という言語を母語とする「ろう者」の方々の中には、特に今の中高年ですが、日本語が苦手な方がたくさんおられます。主な理由としては当時のろう学校の教育方針や環境などが挙げられます。このHP法話も、残念ながら彼らにとれば内容の掴みにくい媒体と言わざるを得ないでしょう。そんな彼らに「読むことも聴聞だから」とは今の私にはなかなか言えません。

このように我々マジヨリティが自分たちの都合の良い「常識」「思い込み」で裁き、見落とし続けていることが世の中にはたくさんあるように思えます。そのような存在に、不十分ながらも気づき向き合おうとする姿勢もまた、十方微塵の世界を見そなわし、この私のために立ち上がりつてくださった阿弥陀様からお育ていただく大切な「いのちの視座」ではないでしょうか。



福岡組 検索